

## 文化・芸術

### 「雨後」

1939年、油彩・合板  
53・0センチ×45・5センチ

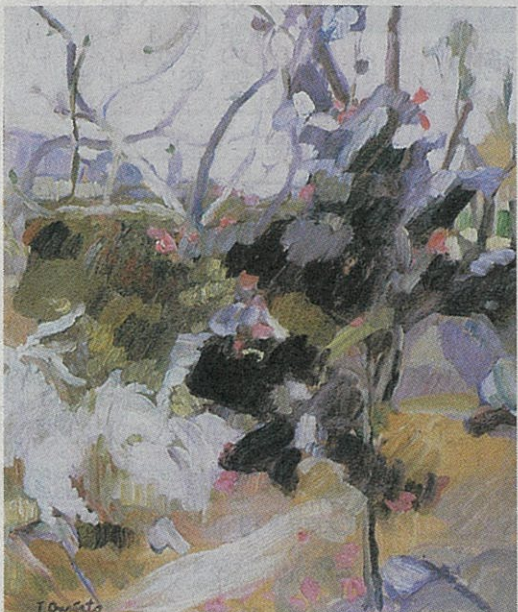
#### オノサト・トシノブ（1912～86年）

オノサト・トシノブといえば、円形を中心に、縦横に分割してモザイクのような緻密な色面構成の抽象作品で知られています。日本の戦後から現代美術をふりかえるとき、かならずとりあげられる作家であり、すでに国内外での評価もたしかなものですね。

この作品は、具象から抽象に変化しようとする最中の初期の制作です。具象といっても、その作品をたどると、いろいろなものを吸収して、模索していったあとがうかがわれます。その模索の過程で大きな影響を受けたひとつが、セザンヌの表現であったようです。

ただしセザンヌの自然を色面に還元して構築的な絵画に対して、この作品をみると青年画家オノサトは、より感覚的で繊細であったとおもわれます。具象的な要素はみられません。色彩はみずみずしく、今なお新鮮です。雨のしずくにぬれたみずみずしい草木の姿と、その間をとる湿度をふくんだ風を感じさせます。

（田中淳）



### 〈名画の扉〉

大川美術館テーマ展から